

プレイバックシアター・過去を共有し、未来を築くワークショップ

ここから考える歴史のトラウマ

—アジアの若い世代が継承する戦争体験—

プレイバックシアター

日時

2008年7月25日(金)
18:00~20:30

場所

立命館大学衣笠キャンパス
創思館カンファレンスルーム

対象

立命館大学関係者、7/24 演劇「哀しみの南京」
(※)を観劇された方(定員120名・先着順)

※24日に京都府立文化芸術会館で行われる
Imagine21のノンフィクションドラマ
「地獄のDECEMBER~哀しみの南京」は、戦争を
過去のものとしてではなく、暴力の世代間伝播と
社会的トラウマの問題として考えていくのに、
とても素晴らしい経験を与えてくれます。
(詳細は「からだとところで歴史を考える会」
<http://www.hwhj.net>)

主催：立命館大学応用人間科学研究科
・カリフォルニア総合学研究所
協力：立命館大学人間科学研究所

ワークショップ

日時

2008年7月26日(土)
10:00~17:00
2008年7月27日(日)
9:00~16:00

場所

立命館大学衣笠キャンパス
国際平和ミュージアム会議室

対象

大学生・大学院生
(日本人・アジアからの留学生各10名ずつ)

主催：立命館大学応用人間科学研究科
・カリフォルニア総合学研究所
協力：立命館大学人間科学研究所
・立命館大学国際平和ミュージアム

参加無料

・7/25~27 いずれも事前申込要



これまでの歴史教育や平和教育の多くが、戦争の「客観的事実」の記憶に重きを置くあまり、事実を伝えられることによってもたらされる様々な感情を置き去りにしてきたように思われます。そのために、戦争体験の記憶が意味のある形で伝わるのが少なくなり、一人ひとりが自らの生き方につながったリアルな出来事として戦争の経験を受け止めることが難しくなってきました。

こうした反省のもとこの「体験的心理学に基づく平和教育の試み」では、戦後世代が気づかないまま継承してきた戦争体験と暴力の問題に体験的心理学の手法を使って光を当て、知識だけでなく感情を十分に受け止める安全なスペースを作りながら、暴力の世代間伝播と社会的トラウマの問題を扱う新たな平和教育プログラムを作成することを目指しています。

前半の二日間は、京都芸術文化会館で行われる Imagine21 のノンフィクションドラマ、「地獄の DECEMBER~哀しみの南京」の観劇と、そこで浮かび上がってくる様々な感情を共有するために、アメリカで長年平和教育に従事してきた心理療法家アルマンド・ボルカス氏を迎えて行うプレイバックシアターで構成されます。自らもアウシュビッツの生還者を両親に持つボルカス氏は、ドラマセラピーや表現アートセラピーなどの体験的心理学の手法を使った独自の平和教育プログラム、Healing the Wounds of History を開発し、ドイツ人とユダヤ人、ユダヤ人とパレスチナ人など様々な対立するグループの和解に取り組んできました。後半の二日間は、立命館国際平和ミュージアムでボルカス氏と一緒に、アジアと日本の若い世代が受け継いできた戦争体験や平和について体験を通して考えていきます。

この企画は、2008年度立命館大学研究の国際化推進プログラム「体験的心理学に基づく平和教育プログラム開発プロジェクト」の支援を受けて行われています。

問い合わせ・申込先

：立命館大学大学院応用人間科学研究科事務局
〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1
(TEL) 075-465-8375 (FAX) 075-465-8364
E-Mail: doku-ken@st.ritsumeii.ac.jp

※申込の際は、件名に「7/25 プレイバックシアター参加」もしくは「7/26-27 ワークショップ参加」と必ずご記入の上 FAX か Eメールにてお申込下さい。お名前・ご所属・ご連絡先をご記入下さい。定員に達し次第、受付終了致します。
★ご記入頂きました個人情報、本企画に関する事項以外には一切使用致しません。
なお本情報につきましては、厳重に管理し企画終了次第適切に処理致します。